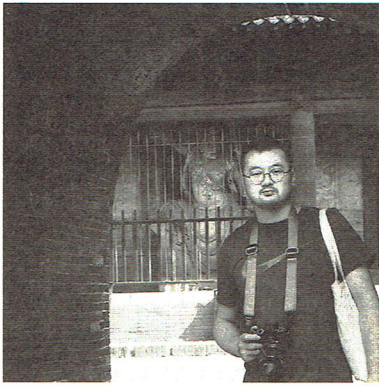


# 和紙 だより

## 目次

和紙な人々 周業欣さん	1
取組紹介 コロナ禍の中の産地の取り組み「ワシマ」	2
Food Paper	3
和紙マタ共同開発 情報欄	4

## 和紙な人々



■周業欣(シュウ ギョウケン)  
1989年江蘇省泰州生まれ。2011年江蘇大学美術学部環境デザイン専攻卒業。2011～2015年、南京テレビ局にて勤務。旅行番組「玩轉天下」の監督・カメラマンを務めた後、2018年、愛知県立芸術大学大学院美術研究科博士課程前期入学。2018～2020年、中国の4箇所の伝統的紙産地を訪ね、ドキュメンタリー映像作品シリーズ「涇県宣紙」「富陽竹紙」「貴州楮紙」「夾江竹紙」を制作。その内「富陽竹紙」は2019年、杭州ショートビデオコンテスト三位入賞。2020年、同大学院博士課程後期にて、社会史的観点から中国・日本の手漉き紙研究を継続中。

■周業欣さん  
(中国手漉き紙研究・映像作家)「手漉き紙の歴史・文化を新しい映像で表現」

### ●関心少ない中国手漉き紙文化

江蘇大学では建築を学び、卒業後、テレビ局に就職し、旅行番組を作っていました。中国の古い町を多く訪ねましたが、安徽省の宣城という所に行った時、「宣紙」の紙漉き工房に入り、大変興味を持ちました。

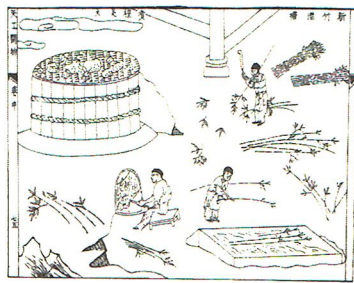
又、大学時代に柳宗悦の「民藝」という本を読んで、初めて「和紙」という言葉を知りました。韓国でも「韓紙(はんじ)」という言葉がありました。中国の場合そういった総称はなく、何故なのだろうと考えました。中国では日常、手漉き紙を使う機会はほとんどなく、プーアル茶の包み紙や、春節、四月の清明節、冬至の時に願い事を書いて飾る「赤い紙」、葬式の時、あの世で使うお金の代わりに燃やす黄色の「紙銭」と呼ばれる紙くらいです。中国はこぞずつと経済優先できたので、紙の発祥地でも昔は多様な手漉き紙があったにも拘らず、多くの人は伝統産業や紙の文化・歴史について無関心です。手漉き紙文化の保護と認知度を高めることが急務となつて来ていると感じています。

### ●中国手漉き紙の歴史の変遷―麻紙・竹紙・楮紙・宣紙

世界最古の紙は、中国甘粛省の放馬灘で発見された紀元前二五〇年頃(前漢時代)の紙とされています。後漢書によると、一〇五年、蔡倫という官吏が樹皮、麻、楮、古布、漁網などの廃棄物を用いて、紙を製造し和帝に献上したとあるので、彼はいわばそれまでの製紙法をまと

めあげ、綺麗な紙を作れることを可能にしたと言えます。前漢〜魏晋南北朝時代(二八四〜五八九年)のほとんどの紙は古布由来の大麻や苧麻が原料で麻紙が主流でした。四〇三年、桓玄(かんげん)という皇帝の時代に、紙は記録用媒体として正式のものとなり、従来の木簡や竹簡、絹布に完全に取って代わりました。その後、次第に桑や楮などの韌皮繊維を用いた製法が登場します。

隋・唐の時代(五八二〜九〇七年)は科挙制度の発達と共に紙の需要が増え、木版印刷の発明とも影響し合い、製紙技術が確立されました。紙は書写に使用されるだけでなく、庶民生活の中でも服や布団など日用品に応用されました。シルクロードを通じて西域にも伝播し、人々は地域の様々な植物で紙を漉きました。藤の皮の紙や黄檗(きはだ)染め、花や文字の模様紙もあり、石で紙を磨く打紙、ミヨウバンを紙に塗ってドーサを施すこともやつたようです。



製紙挿絵「天工開物」十三巻

宋の時代(九六〇〜一二七九年)は中国の文化や出版業が爆発した時代で、米芾(べいふつ)などの有名な書家や詩人が竹紙を愛用しました。文化・経済の中心が南に移行したので、この時代から中国の重要な紙の産地はほとんど東南地域に集中しています。竹は特に中国の南域に豊富だったため、安価な竹紙が作られ、一般の人にも手軽に手に入りまし

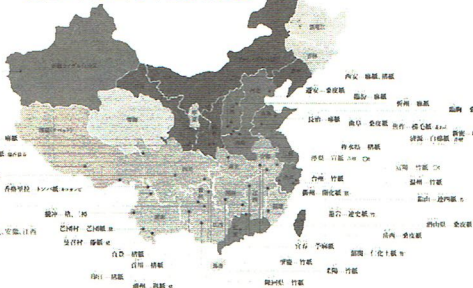
た。紙は書写に使用されるだけでなく、庶民生活の中でも服や布団など日用品に応用されました。シルクロードを通じて西域にも伝播し、人々は地域の様々な植物で紙を漉きました。藤の皮の紙や黄檗(きはだ)染め、花や文字の模様紙もあり、石で紙を磨く打紙、ミヨウバンを紙に塗ってドーサを施すこともやつたようです。

明・清の時代(一三六八〜一九二二年)の紙は、種類と原料はあまり変わらないが、戦争や経済の関係で楮が不足し、宣城西の南陵県から涇県の小嶺村(しょうれいそん)に逃げた職人が、青檀というニレ科の植物の樹皮を原料として作り始めたのが、今日最も有名な「宣紙」です。最初は100%青檀が原料でしたが、これも原料不足から稲藁を入れて漉くようになりました。墨の滲みが味わい深く出るということで、当時の書のアートと合致しました。

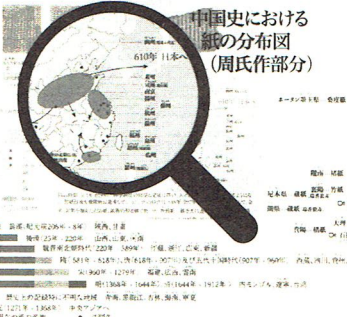
### ●新しい表現手法で中国紙を紹介

中国の今までの紙の研究は、紙の技術、産地調査や復元、芸術表現でしたが、歴史背景、地域文化形成との関係はあまり注目されていません。なぜ、この地域で紙が漉かれているのか、地域の紙文化がどう形成されていったのかに興味があります。職人と紙漉きの関係、歴史、自然環境と地域文化との関係などを、「社会・

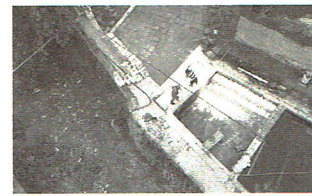
現在の代表的な手漉き紙産地



中国史における紙の分布図(周氏作部分)



コロナ禍の中の産地の取り組み

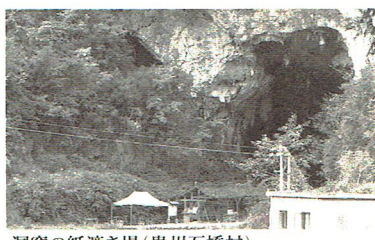


高陽竹紙の発酵池(ドローン使用)

文化史」的な視点で捉え、それを新しい手法で表現しようとしたのが、ドキュメンタリー挑戦への動機です。取り上げたのは代表的な「涇県宣紙」「富陽竹紙」「貴州楮紙」「夾江竹紙」です。

ドローン、ゴープロ6(ヘルメットに装着するなどできる小型軽量、防水設計のアクションカメラ)等を使用し、紙漉き場の空撮、漉き舟に接近した固定撮影、スローモーション、コマ数の多い高フレームレートなどを駆使しました。産地の人々の日常生活や漉く時の無形文化財にもなった労働歌、昔の文献にある挿絵も挿入しました。富陽竹紙などは、原料に人の尿を入れて発酵させるという独自の工程もありますが、家族単位で紙を漉いている小さな工房の中には、珍しい紙を作るところもあります。桑で漉いた紙を籠に貼り、豚の血を石灰で発酵させた液を何回も塗布し、お酒を入れて何年も保存すると、美味しいお酒ができるそうです。大きな鍾乳洞の洞穴の中で紙を漉いている所もあります。今後、中国における紙の文化史を含めた製紙文化のデジタルアーカイブ化ができればいいですね。

宣紙工房の様子(ゴープロ6使用)



洞窟の紙漉き場(貴州石橋村)

「ワシマ」越前和紙若手職人呼びかけ、三日間のネットショップ開設

例年ゴールデンウィーク中の五月三〜五日、紙祖神を祀る越前市の岡太神社・大瀧神社では、春季例大祭「神と紙のまつり」が開催され、古式ゆかしいお祭りとともに和紙ファンが楽しみにしている各漉き場の和紙特売市や手作りイベントが開催される。しかし、今年は新型コロナウイルス蔓延の影響で、日程が五月四、五日の二日間に大幅短縮され、舞の奉納や神輿巡行も出さず、奥の院からの「お下り」や「お上り」の式典も最低限の少人数で執り行われた。このような状況下で、「コロナに負けるな!」と地元の紙漉き工房の若手職人六人が、三日間だけのネットショップを企画した。「ワシマ」のネーミングは、「ワシマツリ」「ワシマニア」「ワシママーケット」の3つの「ワシマ」から名付けた。

●短期間の立ち上げ

呼びかけたのは、漉き場が点在する大滝町で襖紙や創作装飾和紙などを制作する長田製紙所の長田泉さん。例年行事の縮小とイベント中止が三月末に決定されたが、泉さんは「このまま、何もやらないのは淋



コアメンバーの方々

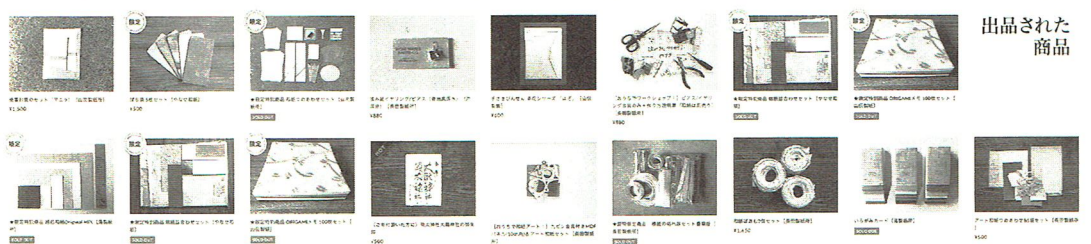
しい。何かできないか?」と仲間相談。山口真史(山伝製紙)、山下寛也(山次製紙所)、清水聡(清水紙工)、瀧英晃(滝製紙所)、柳瀬翔(やなせ和紙)さんから、若手と紙職人五人が応じた。六社のコアメンバーは、LINEでのオンラインミーティングなどを重ね、山岸和紙店の参加も加え、例大祭期間限定の「ワシマ」サイトを四月一日、二週間という短期間で立ち上げ、七日にはショップページを公開。五月三日からの販売に備え、急ピッチで準備を進めていった。泉さんは「日頃から漉き場同士の横のつながりがあり、気軽に仲間に相談できるのが越前という産地の良いところ。これも春秋の大瀧神社の例大祭やイベントを一緒に盛り上げ、長年にわたって培われた信頼感があるからこそ。」と語る。

●産地ならではの限定品と物語をアピール

産地で綿々と受け継がれてきた歴史と文化の原点に立ち返り、開催されるお祭りは、紙の職人が毎年大切にしている行事。当企画では、屋根の修復を控えている岡太神社・大瀧神社に売上10%を寄付。又限られた式典ではあるが、産地を見守ってきた同神社の様子を動画で配信し、リモート参拝ができるようにした。ネット上で同神社への五百円の寄付を頂いた人へは、横山大観が越前滞在の折、奉納した文字が書かれた手漉き耳付き和紙御朱印を送るページも設定して、さりげなく伝統もアピール。ウェブサイトで構築とデザインは、この分野が得意な泉さんが担当。

クセサリーやアートボードの手作りキット)の他、産地ならではの「変わり種商品」が販売された。例えば、

- ① 未来の工場見学六社と宿泊券、和紙職人との飲み会付き(三万円)
- ② コロナゼロ祈願! 限定商品、手漉き襖紙格安二十枚巻き(コロナをもじり、五七〇〇円)
- ③ 手揉み・エンボス加工のサンプルブックと加工試作チケットのセット(五〇〇円)
- ④ インテリア用楮100%の手漉き創作大判和紙「とじバナ」五枚(コロナをもじり、五六七〇円)などのユニークな商品が考えられ、殆どがショップオープンと同時に売り切れた。想像以上の反応にメンバーは驚いたという。



横山大観書 手漉き耳付き和紙御朱印

ら寄付があり、五月二日までですべての発送を終えた。

泉さんは「正直、現地イベントとは全く違うオンラインなので、アクセスしてくれないかもしれない」と思っていました。

越前和紙を支える普段の人間関係がネット上の催しにまで繋がりが、嬉しい予想外でした。今後は

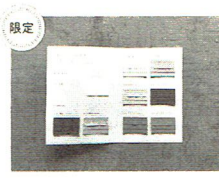
越前和紙の歴史・文化・祭りをアピールする総合的なメディアを目指して、引き続き期間限定の夏・秋の企画も考えてみたい」と抱負を語った。

### 野菜・果物の皮を漉き込んだ Food Paper

一九一九年創業の五十嵐製紙は、創作大判和紙や襖紙、小間紙を製造してきた従業員十人の漉き場だ。同社伝統工芸士の五十嵐匠美さんは、需要低迷や深刻な原料不足に悩む和紙産地の昨今の状況を憂い、自社で企画・製造・販売できる商品の可能性を探るべく、二〇一九年、福井で開催された「中川政七商店」の「経営とブランディングセミナー」の半年六回講座に参加。そこで、デザイナー新山直広さん(福井県鯖江市のデザイン会社TSUGI代表)と二人でチームを組み、開発したのが、野菜・



未来の工場見学宿泊券、和紙職人との飲み会付き



★限定特別商品 CRUMPLE & EMBOSS SAMPLE BOOK (加工試作チケット付!) 【清水紙工】 ¥500



限定5枚! 75%OFF! としバナ(手漉き大紙約105mm×200mm) 【漉製紙所】

果物の皮を漉き込んだ紙「Food Paper」である。

### 息子の自由研究から

五十嵐製紙の襖紙や壁紙には湿気吸着作用のある珪藻土入りのものや、抗菌性のあるホタテの貝を砕き、漉き入れた紙もある。様々なものを漉き込むことで付加価値のある紙が作れないかと模索していたのだ。セミナーで「新しい紙とは？」に二人で知恵を絞る中、匠美さんは、中学三年生の次男優翔(ゆうと)君が、小学校四年生から取り組んでいる「身近なものから紙を漉く理科研究」のことを話し、俄かに紙のコンセプトが見えてきた。

### バナナで作る紙の研究



バナナの皮は繊維が短く、水分が多いので漉きにくい。水分を飛ばすために乾燥機で乾燥させる必要がある。

の野菜・果物を試した。記録ファイルには、ピーナツ殻、ぶどうやみかんの皮、人参などの根菜類、里芋の茎など、多岐にわたる材料が実験されている。優翔君は「始めは失敗ばかりしていたので、母にアドヴァイスを沢山もらいました。そのうち松菜などの葉っぱ系はダメだとか、生姜は匂いが残ってしまうなど分かってきて、強度や摩擦力も試験するようになりました」。一方、匠美さんは、「家の冷蔵庫からセロリやエリンギがなくなっていることもしばしば。畑の作物も片っ端から実験していましたね(笑)」と語る。

息子の自由研究がヒントになり、セミナーの最終提案にまとめあげた野菜の皮を漉き込んだ紙は、発表会で、二月の展示会に出すことができる権利が与えられる。「最優秀 MVP 賞」を獲得し、実際の商品化へと歩を進めることになる。

### 商品化

「Food Paper」を使用した商品第一弾は、ノート、メッセージカード、サコッシュ、小物入れ、ストッカーの五種類。たまねぎ、じゃがいも、にんじん、みかんを始め、数種類の野菜・果物の皮と楮・麻を混ぜ漉き込んだ、新しい風合いの紙だ。

匠美さんは、まず何を漉き込もうかと考え、二〇の候補の中から、試行錯誤を重ね絞り込んでいった。

「人参は、生ではカカリ(繊維の絡み)が悪く、茹でて柔らかくし、フードプロセッサで砕いて、漉き込みました。カニの甲羅も粉末状にして試してみましたが、臭くてダメでした。(笑) みかんの皮は、息子の実験でも良い結果が出て



いて、いい材料です」

材料と楮・麻を混ぜた紙料を漉き舟に溶かし、1×2mの簀笥でため漉きし、乾燥させる。紙にすると普通の和紙の臭いで、漉き込んだ皮が自然な色合いの地模様となっている。カヒも実験試作した五年前のものでも生えておらず問題ない。

### ブランド構築と商品プロデュースを担当した新山さんは、

「越前和紙が培ってきた伝統技法の活用、野菜くずの減量と三〇%の楮の減量にもなる環境にいい持続可能な紙であること、文具や日用品にすることで社会的・教育的なメッセージ性を出すことのできる紙なので、いつか未来の定番になればいいな」と思っています。

語る。新山さんが手がけた「Food Paper」のロゴは、根っこや葉っぱのようなものが生えている伸びやかなデザインとなった。

「Food Paper」は、二月の東京天王洲アイルでの展示会では、初日の人気投票で二位、バイヤーやメディアの問い合わせが殺到。野菜くずなどの材料調達体制や売り込み・販売計画も地元企業を皮切りに着々と進んでいる。現在のところ、商品は「TSUGI」が運営するネット販売サイト「SAVAISTORE」で購入できる他、実店舗では同社の「TOURISTORE」で四月から販売されている。



漉き場

匠美さんと優翔君

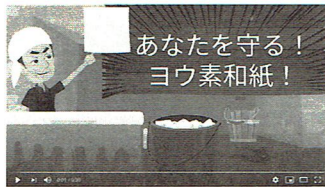
## コロナ禍の中の産地の取り組み

### ■和紙マスク共同開発「ヨウ素抄き込み特殊和紙使用」

全国的にマスクが不足する中、越前市の縫製メーカー「フライングモード」(上坂達朗社長)と越前和紙機械抄きメーカー石川製紙(石川浩社長)は、抗菌作用のある和紙を挟み込むマスクを共同開発した。

### ●双方の技術を補い合い

二月下旬、上坂社長は布マスクの開発を試みたが、不織布以外の素材では目が荒すぎ、飛沫感染防止に適さないと聞き、製造をためらっていた。当時、不織布は全国的に品不足でなかなか手に入らない。ふと地元の越前和紙を組み合わせれば、目が荒い布の弱点を補えるのでは?と思いつき、県和紙工業協同組合に相談したところ、同組合理事長の石川浩氏を紹介された。一方、石川製紙の方でも、和紙をマスクに使えないかとの問合せが多くあった。試作を重ねていたが、和紙素材だけでは息苦しく、顔のフィット性も悪かった。

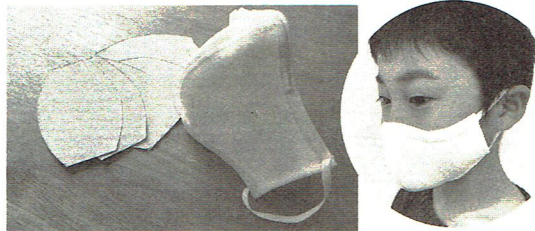


両社はお互いの技術を照らし合わせ、洗って繰り返し使用できる布マスクに、石川製紙が開発し、特許取得した消臭・抗菌効果のある特殊和紙シートを挟み込むことで、商品企画を決定。三月二日から試作品を作り始め、九日には早くも量産体制を整えた。また、販売は石川

製紙の販売子会社「紙和匠」(石川靖代社長)が担うこととなった。

### ●使い勝手よいコロナ対策マスク

布マスクの外側は、伸縮性があり顔にフィットするポリエステル素材、内側は肌に優しいオーガニックコットン製。その間に挟むヨウ素アニオン交換樹脂を漉き込んだ特殊和紙「消臭和の紙」は、アンモニア・硫化水素・酢酸に大きな消臭効果がある他、配合されているヨウ素は海藻由来の天然成分なので安全。通常の抗菌紙とは違い、ウイルスを変形させ無力化するもので、医療現場でも使用されている。ヨウ素和紙の機能性について、分かりやすく解説する動画サイトも設定した。



マスク本体は洗って繰り返し使えるだけでなく、和紙も四日〜一週間程度使用できると言う。発売一ヶ月で二万セットが売れ、キッズサイズも加えた。販売担当「紙和匠」の石川靖代さんは、「県外からの注文も四割以上あり、最近では取り替え用の和紙の注文が増え、増産体制を急いでいる」と語る。この布マスクと和紙シートのセットは二五〇〇円(税別)。取替え用「消臭和の紙」(A4、四枚入り)は、付属の型紙に合わせて紙を切り(一枚から五枚取れる)、装着する。

## 情報欄

### ●イベント情報

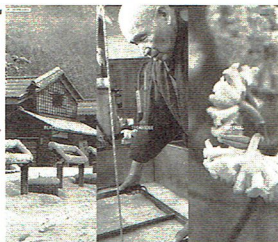
■「伊勢型紙 彫りの手仕事」展 8月24日まで会期延長  
時:令和2年4月1日(水)~8月24日(月)  
場所:卯立の工芸館  
※越前和紙を使った型紙彫りの実技見学と型紙彫り(しおり作り)体験  
8月8日(土) 13:00~15:00  
8月9日(日) 10:00~12:00  
/13:00~15:00



■「道具が語る越前和紙の里」展  
平成26年、越前和紙の製作用具および製品2523点が、国の重要有形民俗文化財に指定されました。本展ではその一部をご紹介します。  
時:令和2年6月17日(水)~8月3日(月)  
場所:越前和紙の里 紙の文化博物館 2階企画展示室(火曜定休)

### ■越前和紙の新ウェブサイトができました!

一昨年から進めておりました越前和紙振興計画に基づいて、新しいWEBページを作成しました。アーティストや特注オーダー、印刷など、あらゆる用途に向けた専門性の高い商品を読める「Bespoke Washi」を発信しています。どうぞご覧ください。  
<https://echizen-washi.com/>



●巻頭でご紹介した周業欣さん制作の中国紙ドキュメンタリーは以下のサイトでご覧になります。

「富陽竹紙」(杭州ショートビデオコンテスト三位入賞)  
<https://www.youtube.com/watch?v=jiukne9lllg&t=18s>  
「夾江竹紙」 <https://www.youtube.com/watch?v=Fc7iG7VxGXl>  
「涇県宣紙」 <https://www.youtube.com/watch?v=QPFbzFrhirE&t=40s>  
「貴州楮紙」 <https://www.youtube.com/watch?v=3n15gWl6x1A&t=5s>



富陽竹紙



夾江竹紙



涇県宣紙



貴州楮紙

### ●岡本小学校の越前和紙デジタル教材のご紹介

越前市岡本小学校の5年生が越前和紙の「デジタル資料集」を作成しました。これは越前和紙の歴史や技法、地元の取組などを子どもたちが動画で分かりやすく伝えてくれるデジタルコンテンツです。伝統産業や地域学習で県内の学校の子どもたちが使っています。興味のある方はぜひ岡本小学校(okamoto\_el@city.echizen.lg.jp)までご連絡ください。ホームページはこちら(<http://school.city.echizen.lg.jp/okamoto/>)です。



編集後記  
新型コロナウイルス蔓延の自粛期で、予定していた取材がことごとくキャンセルになりましたので、巻頭の周さんには、リモート取材をお願いしました。今やTV会議はビジネスに必須となりました。またこのような時期にも拘らず、懸命に頑張る産地の動きをお伝えしたく、3本立てのレポートを掲載しました。(よ)